

自 己 評 価 表

(令和3年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国家社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方の工夫や個に応じた指導を行うとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日2時間以上の家庭学習時間を旨す。 A:2時間以上、B:1.5~2時間、C:1~1.5時間 D:0.5~1時間、E:0.5時間未満	C	調査発表期間は平均2時間程度学習できている。平日の学習時間の平均では、昨年度と比べて微増しているが、1時間弱程度しか学習できていない。休日は、2時間以上学習している生徒が、1、2年生で昨年と比べ増加している。	家庭学習時間確保のため、各教科で課題の出し方の工夫をする。個に応じた予習・復習の方法を指導するなど、調査発表期間以外の家庭学習時間の増加を図りたい。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、ICT活用などにより授業の満足度や学習意欲を高め、授業の改善を進める。 校内研究授業や相互参観授業で、年間4回以上授業を参観して、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回、D:1回、E:0回	A	生徒による授業評価アンケートの全教科平均は1・2学期とも5点満点中4.7で高評価であった。ICTの活用については、教職員の80%が有効活用に努めることができ、70%の生徒が学習活動に活用できた。	教科内及び教科を横断しての情報交換や研究を継続し、満足度を更に高めたい。ICT活用の指導力向上を目指し、研修会や研究を行っていききたい。
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に、個別指導等の徹底や資格取得への意識を高めることにより、上級資格取得の奨励に努める。基礎・基本、実務に役立つ2・3級の合格者を増やす。 A:50人以上、B:40~50人、C:30~40人 D:20~30人、E:20人未満	A	1級合格者は、商業関係で2名となったが、家庭科関係の合格者が62名となり、目標を達成することができた。商業においては、目標を大幅に下回ったが、実務に役立つ2・3級の合格率は上昇してきた。	資格取得は、視野を広げ、粘り強さも身に付くため、知的好奇心を持って取り組ませたい。上級資格取得は、進路実現にもつながることから、資格取得に取り組む生徒数の増加を図り、継続して延べ50人以上の1級合格を目標として頑張らせたい。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間4回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回	A	年間3回の面接週間を行っている。学年団を中心として、担任が適時、適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として継続して面接指導を行う中で、より生徒との関わりを深めていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。 A:98%以上、B:96~98%、C:94~96% D:92~94%、E:92%未満	A	全校出席率は98.4%で目標を達成している。	2学期以降欠席・遅刻等が増加している。個に応じた生活指導をきめ細かく行うとともに、長期休暇の過ごし方を含め、より高い意識を持って学校生活に取り組ませる指導が必要である。
	環境整備への主体的な取組	5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を目指す。 A:70日以上、B:55~70日、C:40~55日 D:30~40日、E:30日未満	B	開校日数減少の中、遅刻ゼロの日は56日となった。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が5分前登校できている。	前年度より増加したが、今後も遅刻の背景にある要因を分析し、担任・学年団を中心に生徒の実態に応じた指導を行いたい。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。	B	生徒の環境美化への意識を高めるため、清掃時は5分前に担当場所へ移動するように呼び掛けた。地域行事にはボランティアとして参加してくれる有志生徒が増えた。	美化委員会から全校生徒への環境美化を呼び掛けるなど、各クラスの美化委員が中心となった取組となるように工夫したい。奉仕の精神で活動できる生徒を増やしていきたい。
ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。交通ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	今年度、自転車マナー向上対策推進校になり各事業を行う中で生徒の意識は上がってきている。今現在まで交通事故はゼロである。しかし、ヘルメットの無着用、ながらスマホなど外部からの指摘がある。	ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を継続して粘り強く行うとともに、地域からの指摘に対しても巡回回数を増やす等の対応を継続していく。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路保障	学年団と進路課が連携をとりながら、1年次から進路意識を高める指導を継続的に行う。多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、希望進路達成率100%を目指す。 A:100%、B:90～100%、C:80～90% D:70～80%、E:70%未満	B	3年生の進路満足度は95.0%で昨年度より1.6ポイント上昇した。 コロナ禍で外部講師等を活用することが難しかったが、夏休みを中心にリモートでの講演会や他校との集団討論等を実施することができた。また、流行が落ち着いた12月に1年生に対して進路講演会を実施し、意識を高めることができた。	授業や考査に真剣に取り組み、基礎学力を定着させる指導を、学年団や教務課と連携をとりながら進めていきたい。その結果、希望進路達成率につながると考える。
	進路指導力の向上	入試改革や学部・学科変更等の情報収集を行い、校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。	B	今年度より、模試や課外の日程を、校内ネットワークシステムで共有することができた。しかし、入試情報については、あまり発信できなかった。	引き続き、校内ネットワークシステムを有効活用するとともに、入試情報についても発信していきたい。
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組、デジタルサイネージの活用等を通じ、生徒が自ら考え、行動する力を育む。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など、職業理解の機会を増やす。	B	インターンシップの希望調査や準備を昨年度より1か月早めに始動したことにより順調に進めていたが実施は中止となった。デジタルサイネージについては、愛媛朝日テレビの協力で地元企業を中心に就職面で活用しているが、進学面への活用も検討中である。体験学習、職場見学への積極的参加は、コロナ禍において実施が難しかった。	デジタルサイネージの進学面への活用を研究する。また、オープンキャンパスや合同企業説明会等への積極的参加を呼び掛ける。
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。県総体出場100人以上を達成する。 A:100人以上、B:80～100人、C:60～80人 D:40～60人、E:40人未満	B	県総体出場者は90名であり、目標人数に少し及ばなかった。生徒数に対し、部の数が多いため各部顕著な成績を収めることが容易ではなくなっている。	部活動の精選を本格的に実施し、計画的に充実した指導を目指して県総体出場100人を達成したい。
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、4つ以上の部と20人以上の参加を目指す。 A:4つ以上の部で20人以上参加 B:4つ以上の部で15人以上の参加、又は、3つの部で20人以上の参加 C:3つ又は2つの部で15人以上の参加 D:2つの部で15人未満の参加 E:D評価に届かない場合	A	県の高文祭には、四つの部で30名の参加となり、目標を達成することができた。しかし、生徒数に対し、部の数が多いため各部顕著な成績を収めることが容易ではなくなっている。	計画的で充実した指導を目指し、引き続き、総合文化祭等において20人以上の参加を目指していきたい。
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。	A	コロナ禍において生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動に制限や制約がある中、できることから取り組んでいくことができた。	生徒にとって大切な経験ができるのが生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動である。来年度は制限や制約が軽減された時期に積極的に取り組んでいこう、サポートしていきたい。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。 A:5回以上、B:4回、C:3回 D:1～2回、E:0回	C	コロナ禍で制限や制約があり、今年度も奉仕活動、地域清掃活動をする機会を失った。生徒にとって人間性を育てる大事な機会だと思うので、来年度は何とか実現できるよう、取り組んでいきたい。	奉仕活動や地域清掃活動は豊かな人間性を育成する貴重な機会であり、積極的な参加を呼び掛けたい。また、地域清掃活動が中止となった場合には、できる限り適切な時期に実施したい。
同和・教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、多様化する人権課題への啓発活動や現地研修会などを実施し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B	対外的な活動が中止等となる中で、校内行事は少しずつ本来のものが実施できるようになった。生徒の人権ボスター展示も再開し、PTA広報誌も継続して発行することができた。	シトラスリボン運動や美化活動、ヤングケアラーなどに対する支援など、人権委員会の活動を地域の啓発活動に生かしていけるようにしたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。校外活動にも積極的に参加して <u>地域との交流を深め、親しみやすく開かれた学校づくり</u> に努める。	B	「学校案内」「ライフデザインだより」等の発行物で情報を確に発信できた。「学校案内」は内容を大幅刷新した。ホームページは、新しく構築したものを改善し、行事の前に参加を促すお知らせなど継続して更新した。家庭科は「地域協働事業」の活動報告を随時掲載することができた。	発行物やホームページを通じて、よりタイムリーな情報を発信していきたい。「学校通信」の発行が少し遅れることがあったので改善していきたい。これからも小・中学校との交流を図るなど、地域に開かれた学校づくりに努めていきたい。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	P T A・同窓会や地域の諸団体と協力し、「総合的な探究の時間」や課題研究で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、SDGsの観点を踏まえた授業や地域貢献活動等を積極的に実施し、特色ある学校づくりに努める。	A	地域の様々な方面の方々との協働し、地域人材を活用した講演会や実践を行うことができた。特に、ライフデザイン科では、文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、地域と連携して、「椿文化」「魚食文化」「はだか麦」の普及活動を行うなど、特色ある学校づくりに努めた。生徒は、地域の人たちと関わる機会を持つことができた。	今年度が最終年度となった「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究を踏まえ、今後も地域連携を図っていきたい。また、持続可能な開発目標の観点から、竹林整備活動を発展させた取組への挑戦（竹を使う活動等）、商品開発やイベント参加など生徒が主体的に活躍できる場を提供していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の定時退勤日の設定や部活動の休日の確保などにより、教職員の勤務時間を守る。また、ICT導入で業務の効率化・平準化を図り、時間の有効活用を推進する。	C	グループウェアの活用によるアンケートの実施や掲示板による情報共有により、会議時間の短縮を図ること等により、昨年度と比較すると、勤務時間の超過が減少したが、今後も工夫が必要である。	定時退勤の設定日を増やしたり、テレワークの活用を勧めたりして、更に時間の有効活用を図りたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施したり、休憩場所の環境改善を行ったりすることで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	健康相談の資料の提示や学校医との健康相談などを行ったり、今年度初めに、職員室の椅子の交換を行ったりした。また、校内の教員研修でグループワークを行い、交流を図る機会を持つことができた。	日常的なコミュニケーションを大切に、教職員が支え合い、助け合える人間関係を築くとともに、教職員のメンタルヘルスケアに取り組み、心身ともに充実した職場づくりに努めたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。